

公益社団法人 地盤工学会  
**基 準 部 会**  
 平成 24 年度第 4 回 議事録(案)

担当 仙頭紀明 (幹事)

|        |                                   |   |     |          |   |     |           |   |
|--------|-----------------------------------|---|-----|----------|---|-----|-----------|---|
| 日時     | 平成 24 年 11 月 20 日 (火) 14:00~17:00 |   |     |          |   | 場所  | 地盤工学会 会議室 |   |
| 部長     | 小島 芳之                             | ○ | ★理事 | 竹下 祐二    | ○ | 幹事  | 仙頭 紀明     | ○ |
| 部員     | 伊貝 聡司                             | × | 部員  | 長田 昌彦    | × | ★部員 | 斉藤 和則     | ○ |
| ★部員    | 高柳 剛                              | × | ★部員 | 藤原 照幸    | × | 部員  | 平井 貴雄     | × |
| 部員     | 宮田 喜壽                             | ○ | 部員  | 吉嶺 充俊    | × | 部員  | 利藤 房男     | ○ |
| オブザーバー | 中川 直                              | × | 代理  | 古関潤一(室内) | ◎ |     |           |   |

★：H24 年度新任      ○：出席予定      ☆：出席（電子会議）      ◎：代理出席      ×：欠席予定      △：未定

配 付 資 料

| 資料番号       | 資 料                                    |
|------------|--|
| 資料-24.4.0  | 平成 24 年度 第 3 回基準部会議事録案                 |
| 資料-24.4.1  | 平成 25 年予算案及び活動計画案                      |
| 資料-24.4.2  | 室内試験基準の JIS 化・英文化に対する意見資料              |
| 資料-24.4.3  | 新規制定「ベンダーエレメント法による土のせん断波速度測定方法」小冊子原稿案  |
| 資料-24.4.4  | 新設WG「一軸引張り試験方法基準化検討WG」設立趣意書            |
| 資料-24.4.5  | 新設 WG「過酸化水素水を用いる pH 試験方法基準化検討 WG」設立趣意書 |
| 資料-24.4.6  | 理事会 (9/28, 10/24) 開催報告資料               |
| 資料-24.4.7  | 社団法人日本建設業連合会からの ISO 受託研究に関する経過報告資料     |
| 資料-24.4.8  | 地盤工学表記法委員会報告資料 [10 月 11 日議事録案]         |
| 資料-24.4.9  | 平成24年度JISの見直し調査への回答書                   |
| 資料-24.4.10 | 会員からの質問の回答 (地盤調査規格・基準委員会)              |
| 資料-24.4.11 |  |
| 資料-24.4.12 |  |
| 資料-24.4.13 |  |
| 資料-24.4.14 |  |
| 資料-24.4.15 |  |
| 資料-24.4.16 |  |
| 資料-24.4.17 |  |
| 資料-24.4.18 |  |
| 別添資料       | 「技能試験実施検討WG」に関する資料 (11/20バージョン)        |

## 審議事項

### 1. 前回議事録の確認 (資料-24.4.0)

議事録が承認された。

### 2. 全体関係

(1) 会長からの提案 継続審議

(2) 平成 24 年度基準部の活動について

基準部と各委員会の議事録と名簿が更新されていないとの指摘が部長よりあり、速やかに更新することになった。議事録は各委員会から事務局に送付するものとする。

(3) 平成 25 年予算案作成及び活動計画

(資料-24.4.1)

ISO 関連の予算において ISO 対応活動費の経常費用が積み上げ資料と異なっていたため、予算 2 次案提出の際には修正することになった。

### 3. 委員等の異動

報告事項 (1) 室内試験規格・基準委員会

①室内試験規格・基準委員会 メール審議済

・小橋 秀俊 委員 (独)土木研究所 → 宮武 裕昭 氏 (同所)

理由：異動による委員の交代。前任の部署の人と交代したい。

(2) 地盤調査規格・基準委員会

報告事項 (3) ISO 国内委員会 メール審議済

①ISO/TC 190 国内専門委員会 WG10 運営 WG 委員の復帰

・今井 一成 氏 (日立ハイテクノロジーズ)

理由：かつて、当運営 WG 委員 (TK (陰イオン向けテスト・キット検出法) チーム・リーダー) としてご活躍いただいております今井前委員ですが、ご都合で 2011 年 7 月 12 日付けでいったん退任なさいました。ところが、こんばん、気候変動わくでの規格化がはじまり、日本案と競合する可能性がある規格案が欧州側から提案されました。この対策のため、この分野の第一人者として急きょ復帰をお願いしたものです。

略歴：同氏は日立製作所に入社以来、分析機器の研究開発および設計に携わってこれ、光学系および検出系に通じておられるほか、これまで手分析であった各種分析機器を自動化された経歴をお持ちの方です。とくに、連続流れ分析法 (フローインジェクション分析法) は、同氏によってはじめて商業化されたもので、分析化学の実用化についても、尽力されたこの分野の第一人者です。また、微生物検知の専門家でもあり、こんばん、気候変動わくで日本から提案予定のひとつである「土壌中の微生物検知法」についてご担当いただく予定です。次回関係委員会 (当運営 WG 会議 (総会)) は、10 月 30 日に予定しており、この回からご参画いただきたいと思います。

(4) 地盤設計・施工基準検討委員会

(5) 表記法検討委員会

(6) 部員の異動

### 4. ISO 国内委員会 関係

報告事項 (1) 国際会議派遣 すべてメール審議済

①陰イオン向けテスト・キット検出法に関する ISO/TC190/SC 3/WG 13 (爆薬) との合同会議

・行 先：韓国・ソウル

・出張者：坂井 宏行、ISO/TC 190/SC3/WG 10 (予備試験法) —convenor, 議長職グループ・リーダー (公益財団法人鉄道総合技術研究所)

・期 間：2012 年 10 月 10 日～10 月 11 日

ただいま調整中のため、出張期間は多少前後します。なお、出張日数に変更はありません。

・理 由：日本 (地盤工学会) から ISO/TC 190/SC 3/WG 10 (予備試験法) へ提案・審議している「陰イオン向けテスト・キット検出法」について、第 27 回 ISO/TC 190 年次総会 (2012 年 9 月、フィンランド・ヘルシンキ) での審議の結果、関係 WG と共同審議の協議をする必要が急きょ生じたため、関係委員を出張させるものです。

・費 用：本件は、経済産業省支弁 (補助金充当) となっております。

## ②CEN/TC 341/WG 6 会議

- ・行 先：ミュンヘン（ドイツ）
- ・出張者：豊田 浩史 ISO 国内委員会委員（長岡技術科学大学）
- ・期 間：本年 11 月 25 日～12 月 1 日（会議日：11 月 27, 28, 29 日）
- ・理 由： CEN/TC341/WG6（Laboratory tests on soils：室内土質試験）において、12 の室内土質試験の ISO 規格の策定が行われてきている。日本は、これらの中で 11 の規格・基準を有しているため、会議において積極的に意見を発し、我が国への影響がないように対策を進めておく必要がある。今回は、第 8 回目の会議となるが、ISO 規格の今後の動向を把握し、必要に応じて国内委員会において対策を講じる。
- ・費 用：地盤工学会 ISO 対応費

## ③ISO/TC221/WG2, 3, 4 会議及び総会

- ・行 先：タイ・バンコク
- ・出張者：宮田 喜壽 ISO/TC221 国内委員会委員長（防衛大学校）
- ・期 間：2012 年 12 月 9 日～12 月 15 日（7 日間、学会負担は 3 日間）出張期間は、前後することがあります。
- ・理 由：ISO/TC221/WG2(用語・識別・サンプリング)、WG3（力学特性）、WG4(水理特性)、WG5（耐久性）の 4 つの WG ミーティング、ならびに総会に参加し、我が国の実情を規格に反映させ、規格・基準に関する最新の情報を入手するために 1 名の委員を派遣したい。
- ・費 用：本件については、地盤工学会からの派遣出張をお願いします。ただし、派遣期間に TC221 に関連する国際会議が開催され、派遣予定者はその会議にも出席します。したがって、学会負担は往復の旅費と 3 日間の滞在費（宿泊費・日当）とし、そのほかの費用は派遣者負担とします。

## 5. 地盤工学表記法委員会 関係

### 6. 室内試験規格・基準委員会 関係

- (1) 室内試験基準の JIS 化・英文化に対する意見 (資料-24.4.2)  
英訳が終了した 11 の基準が紹介された。また英文化と JIS 化の優先順位についても報告があった。
- (2) 新規制定「ベンダーエレメント法による土のせん断波速度測定方法」の解説原 (資料-24.4.3)  
上記基準の解説原稿が示された。一読して意見がある場合は、11 月 26 日までに藤原委員に連絡することとなった。

### 報告事項 (3) 新設ワーキンググループ

- ①一軸引張り試験方法基準化検討 WG 設立趣意書 (資料-24.4.4)  
実務でのニーズが高いことから、基準化検討 WG の設立を承認した。
- ②過酸化水素水を用いる pH 試験方法基準化検討 WG 設立趣意書 (資料-24.4.5)  
実務でのニーズが高いことから、基準化検討 WG の設立を承認した。

### 7. 地盤調査規格・基準委員会 関係

特になし。

### 8. 地盤設計・施工基準委員会 関係

特になし。

### 9. 販売促進 WG

特になし。

### 10. 基準部所管刊行物

#### 報告事項 (1) グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説の増刷 メール審議済

- ・印刷部数案：5000 部
- ・理 由：
  - ①本書は、5 月末の発行で 3000 部印刷し、10 月の下旬までの 5 ヶ月で全て完売となる見込み
  - ②今後の販売見込みとして、単純に 5 ヶ月で 3000 部、1 年で 7200 部となるので、8000

部  
討

旧版時の印刷実績が初版 3000 部、2 刷 5000 部で印刷したので、5000 部の二つの案を検

し、それぞれ見積りを取得。見積りより一部当りの実費を算出し比較したところ、それほど大きな差が無いことを確認。

5000 部・・・1,584,000 円・・・1 部当たり約 317 円

8000 部・・・2,350,000 円・・・1 部当たり約 294 円

その差 23 円。

③事務・販売担当に確認しましたところ、編集に携わった委員の方の複数の会社にて、営業所単位で 5～10 部ずつなど、非常に多くご購入いただいている。また、アンカー協会さまの大口注文も、これまで 365 部であり、今後は、このままのペースで売れ続くわけではないと思われる。実際、地盤設計・施工基準委員会 WG3 の幹事に確認し、以下のコメントもいただいた。『初版売り上げのペースは、大口購入などの影響を受けているため、通常より速いと考えられ、今後の予測の参考にはならないと思います。よって、増刷部数は 5000 部の方が無難かと思えます。』

④1 部当りの単価の差もわずかと思われるので、今回は 5000 部の増刷で良いかと考えます。

## 1 1. その他

(1) 「技能試験」の実施に関する検討

(別添資料)

同日午前中に開催した第 2 回技能試験実施検討 WG で議論した内容と理事会で報告する「技能試験」の継続的实施に向けた課題と方策(案)」について部長より説明があった。

### 報告事項

1. 理事会(9月28日, 10月24日書面会議)開催報告

(資料-24.4.6)

基準部関連事項について説明があった。

地盤調査関連の 58 基準が理事会で承認されたことが報告された。

2. 全体関係

3. 部会・委員会関係

(1) ISO 国内委員会

報告事項 ① 平成 24 年度 ISO 対応活動費の資金援助要請に関する経過報告

| (相手先)              | (金額)       |        | 報告書の有無 | (納期) |             |
|--------------------|------------|--------|--------|------|-------------|
|                    | 助成         | 受託     |        |      |             |
| ・土木学会              | 100 万円     |        | ○      |      |             |
| ・三菱総合研究所(回答作成)     | 70 万円      |        | ○      |      |             |
| ・三菱総合研究所(重点TC旅費)   | 3 件        |        | ○      |      |             |
| ・日本建設業連合会          | 50 万円      |        | ○      |      | (資料-24.4.7) |
| ・三菱総合研究所(国際標準開発事業) |            | 450 万円 | ○      |      |             |
| 小計                 | 230 万円+3 件 | 450 万円 |        |      |             |
| 合計                 | 680 万円+3 件 |        |        |      |             |

(2) 地盤工学表記法委員会

① H24 第 3 回委員会(10月11日開催)報告

(資料-24.4.8)

用語の JIS は、規格改訂時に規格が引用することになるので、想定しているスケジュールよりも早めの完成を目指すことが望ましいとの意見があった。

(3) 室内試験規格・基準委員会

① 平成 24 年度 JIS の見直し調査への回答(資料添付)

(資料-24.4.9)

液性限界試験の変更を回答したとの報告があった。変更点は、液性限界試験器のゴム台の JIS 規格がなくなったことである。

(4) 地盤調査規格・基準委員会

① 会員からの質問の回答

(資料-23.4.10)

平板載荷試験、山中式土壌硬度試験、突き砂による土の密度試験に関する3件の質問とその回答が報告された。

- (5) 地盤設計・施工基準委員会
- (6) 販売促進 WG
- (7) 英文HP

4. 日本工業標準調査会 土木部会

●H24 年度 基準部関係委員会開催状況

| 委 員 会 名   |   | 委員会開催日, 太字は次回開催日   |
|---|---|--|
| 基準部会  | 小島 芳之   | 5/17, 7/18, 9/12, 11/20, <b>1/11</b>   |
| ISO 国内委員会<br>・WG1 ISO/TC182 対応<br>・WG2 ISO/TC190 対応<br>TC190/SC3/WG10 対応 WG<br>・WG3 ISO/TC221 対応  | 大谷 順<br>木幡 行宏<br>平田 健正<br>坂井 宏行<br>宮田 喜壽  | 6/19<br><br>6/14<br>11/7   |
| 室内試験規格・基準委員会<br>・WG1 物理特性<br>・WG2 化学特性<br>・WG3 透水・圧密特性<br>・WG4 力学特性<br>・WG5 安定化・締固め特性<br>・WG6 ジオシンセティックス<br>・WG7 ベンダーエレメント試験基準化<br>・WG10 「土質試験-基本と手引き-」改訂編集 WG<br>・WG12 動的試験基準検討 WG   | 古関 潤一<br>(小口秀俊)<br>乾 徹<br>(大向直樹)<br>(塚本良道)<br>(阿部哲生)<br>椋木 俊文<br>(川尻峻三)<br>大島 昭彦<br>伊藤 洋  | 7/15, 10/25, <b>2/19</b><br><br>6/11<br><b>1/24</b>  |
| 地盤調査規格・基準委員会<br>・WG1 物理探査・検層 (第3編)<br>・WG2 ボーリング・サンプリング (第4,5編)<br>・WG3 地下水 (第7編)<br>・WG4 サウンディング (第6編)<br>・WG5 載荷試験 (第8編)<br>・WG6 現場密度試験 (第9編)<br>・WG7 現地計測 (第10編)<br>・WG8 環境化学分析のためのサンプリング (第11編)<br>・WG9 地盤調査の計画, 資料調査・地質調査 (第1,2編)<br>・WG10 地盤環境調査 (第12編)<br>・WG11 動的コーン貫入試験方法基準化WG<br>・WG12 「地盤調査-基本と手引-」改訂編集WG<br>・WG13 水圧破碎による初期地圧測定法の基準化検討WG<br>・WG14単孔を利用した地下水流向流速測定方法の新規基準化WG | 谷 和夫<br>松島 潤<br>正垣 孝晴<br>中村 裕昭<br>田中 洋行<br>細野 高康<br>三嶋 信雄<br>上野 将司<br>平田 健正<br>木谷日出男<br>稲垣 秀輝<br>大島 昭彦<br>日比 義彦<br>伊藤 高敏<br>進士 喜英 | 5/ 7, 8/22, <b>12/7</b><br><br>6/ 7<br>4/18, 8/ 8, <b>11/29</b><br>4/20<br>5/25, 11/1<br>8/ 1<br><br>5/ 9, 8/27, 10/31, <b>1/28</b><br>7/19, 10/22<br>10/ 5, <b>12/14</b><br>8/ 8, 10/11, <b>11/29</b> |
| 地盤設計・施工基準委員会<br>・WG1 土構造物<br>・WG2 杭の水平載荷試験<br>・WG3 グラウンドアンカー<br>・WG4 サンドコンパクションパイル工法<br>・WG5 地山補強土  | 北詰 昌樹<br>本城 勇介<br>中井 正一<br>山田 浩<br>寺師 昌明<br>龍岡 文夫   | 4/23, 7/ 5, <b>9/26</b>  |
| 地盤工学表記法<br>・WG-A  | 大島 昭彦   | 4/17, 6/14, 8/10, 10/11, <b>12/14</b>  |

5. その他

- 1) 理事会 (平成24年 9月 28日 (金)) への審議事項・報告事項

2) 総務部会（平成 24 年 10 月 9 日（火）開催予定）への提案事項

3) 次回以降の部会開催日

- 24 年度第 5 回：平成 25 年 1 月 11 日（金）14:00 時～  
（対応理事会 H25. 1.25 or H25. 2.20（書面））
- 24 年度第 6 回：平成 25 年 3 月 8 日（金）14:00 時～  
（対応理事会 H25. 3.15 or H25. 4.24（書面））

☆ 平成 24 年度 理事会・運営連絡会議 開催日程（予定含む）

◎理事会

- ① 4 月 27 日（金） ※書面審議
- ② 5 月 14 日（月）
- ★ 6 月 13 日（水） 総会／理事会
- ③ 6 月 20 日（水） ※書面審議
- ④ 7 月 27 日（金）
- ⑤ 9 月 28 日（金）
- ⑥ 10 月 24 日（水） ※書面審議
- ⑦ 11 月 30 日（金）
- ⑧ 12 月 19 日（水） ※書面審議
- ⑨ 1 月 25 日（金）
- ⑩ 2 月 20 日（水） ※書面審議
- ⑪ 3 月 15 日（金）

- 
- ⑫ 4 月 24 日（水） ※書面審議
  - ⑬ 5 月 17 日（金）
  - ★ 6 月 13 日（木） 総会/理事会